

令和6年度 看護専攻科 教職員・学生評価 アンケート結果と第三者評価委員評価

1 グラデュエーションポリシー

4：とても当てはまる 3：ある程度当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない

評価項目	評価内容			平均	評価	学校評価	第三者評価委員 評価
①看護師としてふさわしい倫理観をもった人材を育成する	1	学生 ①	守秘義務を厳守し、対象の個人情報を適切に取り扱うこと扱うことができる	3.8	A	○学生の自己評価はすべて3以上となり、倫理観の育成はできていると考えられる。これは教員の自己評価からもわかるように、倫理観の育成のための的確な時期に指導ができていと考えられる。 ○昨年とは一部のアンケート項目が違うが、ほとんど昨年度より評価点が上がり「A」評価が増加している。指導が行き届くようになった。 ○評価番号2―②は教員の自己評価は「C」と低い。しかし、学生の評価は「A」評価である。これは、少ない指導でも学生はできるようになったと自覚していると評価できる。	全体として評価が向上しているのは成果である。アンケート番号2②は教員評価と学生評価にギャップがある。なぜ起こったのかを分析する必要がある。 倫理観の育成は学生時代に培うべき最も重要な項目で、学生、教員ともに良い評価であることは喜ばしい。その中で、すべての項目において、教員の評価に比べて学生の評価が高く、今年度の学生は自己肯定感が高いと推察される。アンケート番号2②の項目において教員の評価はCであるが、学生の評価はAになっている。世間話的な内容をコミュニケーションととらえているかどうかについても指導が必要である。
		教員 ①	守秘義務を厳守し、対象の個人情報を適切に取り扱うよう指導している	3.9	A		
		学生 ②	ケアの実施時にはプライバシーの保護ができる	3.8	A		
		教員 ②	ケアの実施時にはプライバシーの保護の必要性を学生に説明している	3.9	A		
	2	学生 ①	対象者の価値観や生活背景を考えて看護を計画できる	3.5	A		
		教員 ①	対象者の価値観や生活背景を考えて看護を計画するよう指導している	3.9	A		
		学生 ②	受け持ちの患者以外にもコミュニケーションがとれる	3.5	A		
		教員 ②	受け持ちの患者以外にもコミュニケーションがとれるよう指導している	2.6	C		
	3	学生 ①	ケアについて十分に説明し、対象者の意思決定を支えられる	3.6	A		
		教員 ①	ケアについて十分に説明し、対象者の意思決定を支えるよう指導している	3.8	A		
		学生 ②	ケアを実施する時に安全上行ってはならないことがわかる	3.7	A		
		教員 ②	ケアを実施する時に安全上行ってはならないことを指導している	3.9	A		
		学生 ③	実施した看護のプロセスや結果と対象者の全体像を結び付けて評価できる	3.4	B		
		教員 ③	実施した看護のプロセスや結果と対象者の全体像を結び付けて評価するよう指導している	3.4	B		
		学生 ④	対象者の反応が予測と異なるときに、教員や指導者に相談できる	3.5	A		
		教員 ④	対象者の反応が予測と異なるときに、教員や指導者に相談するよう指導している	3.8	A		
	4	学生 ①	自己の看護を振り返り、自己の課題に取り組むことができる	3.6	A		
		教員 ①	自己の看護を振り返り、自己の課題に取り組むことができるよう指導している	3.4	B		
		学生 ②	専門職として生涯にわたり学習を続け、成長していくために自己を評価し、管理していく重要性について理解できる	3.6	A		
		教員 ②	専門職として生涯にわたり学習を続け、成長していくために自己を評価し、管理していく重要性について指導している	3.5	A		
	5	学生	看護の実践をよりよくするために創意工夫することができる	3.6	A		
		教員	看護の実践をよりよくするために創意工夫することができるよう指導している	3.5	A		
②他者と協働でき、社会人としてのスキルを身につけた人材を育成する	6	学生	他職種の役割を理解したうえで看護職者としての役割を果たすことができる	3.5	A	○他職種連携においても「A」評価がほとんどを占め、学生は成長を実感している。アンケート番号7は、教員評価が「B」となっているため、今後の課題である。	他職種連携については、学生、教員ともにその必要性を理解し、実践できているため指導の成果が出ていると考ええる。
		教員	他職種の役割を理解したうえで看護職者としての役割を果たすことができるよう指導している	3.6	A		
	7	学生	対象の健康問題の解決・回避に必要な情報をチームメンバーと共有することができる	3.6	A		
		教員	対象の健康問題の解決・回避に必要な情報をチームメンバーと共有できるよう指導している	3.4	B		
	8	学生	対象の健康問題の解決・回避に向けてチームメンバーと協働することができる	3.6	A		
		教員	対象の健康問題の解決・回避に向けてチームメンバーと協働できるよう指導している	3.5	A		
	9	学生	チームの一員としてより良い看護を実践するために、他者に支援を求めることができる	3.6	A		
		教員	チームの一員としてより良い看護を実践するために、他者に支援を求められるよう指導している	3.9	A		
	10	学生	看護を実践するために常に自己の健康状態に留意している	3.7	A		
		教員	看護を実践するために常に自己の健康状態に留意するよう指導している	3.9	A		

評価項目	評価内容		平均	評価		第三者評価委員様ご意見
③専門的な知識・技術を身につけ、豊かな心をもつ人材を育成する	11	学生	対象の意思や価値観、ライフスタイルなどを考慮して看護を実践できる	3.5	A	○知識・技術の習得についてもおよそ満足していると考ええる。アンケート番号18の学生評価は「B」である。対象の家庭環境などの生活環境を理解したうえで看護を実践することは難しく、経験が少ない学生でも視野を広くして考えられるように指導していく必要がある。 知識・技術の習得と豊かな心を育てるという項目については学生・教員ともにA評価をしており、素晴らしい結果が出ている。その中でアンケート番号18については学生が唯一Bと評価している。家庭、労働、学習環境の理解については、臨床指導者の助言を生かして看護実践を行う必要があると考える。
		教員	対象の意思や価値観、ライフスタイルなどを考慮して看護を実践できるよう指導している	3.6	A	
	12	学生	対象の健康状態を把握するために情報を多角的に収集しアセスメントできる	3.5	A	
		教員	対象の健康状態を把握するために情報を多角的に収集しアセスメントするよう指導している	3.8	A	
	13	学生	原理・原則に基づいて対象に安全かつ安楽な看護を提供できる	3.6	A	
		教員	原理・原則に基づいて対象に安全かつ安楽な看護を提供できるよう指導している	3.8	A	
	14	学生	看護学・医学などの専門的知識に基づいて対象の健康問題を把握できる	3.5	A	
		教員	看護学・医学などの専門的知識に基づいて対象の健康問題を把握できるよう指導している	3.8	A	
	15	学生	対象の発達段階に関心を向けながら、日々の看護を実践できる	3.5	A	
		教員	対象の発達段階に関心を向けながら、日々の看護を実践できるよう指導している	3.6	A	
	16	学生	対象の家族や重要他者を含めて看護を実践できる	3.5	A	
		教員	対象の家族や重要他者を含めて看護を実践できるよう指導している	3.6	A	
	17	学生	対象がもつ様々な生活背景を理解したうえで看護を実践できる	3.5	A	
		教員	対象がもつ様々な生活背景を理解したうえで看護を実践できるよう指導している	3.8	A	
18	学生	家庭、労働、学習環境など、対象が生活する場を理解したうえで看護を実践できる	3.4	B		
	教員	家庭、労働、学習環境など、対象が生活する場を理解したうえで看護を実践できるよう指導している	3.8	A		
④予測困難な時代に適応し、自己研鑽ができる人材を育成する	19	学生	社会情勢やその変化に関心を向けている	3.3	B	○アンケート番号19は、様々な世代の人の看護に必要なことであり、一般的な常識を学生は身につけたい。健全な批判力も必要。様々な場面で新聞記事等の紹介をするなど社会情勢を考える機会を取り入れる工夫も必要である。社会情勢の変化についても、日々刻々と変わる中で、どのように教えていくかが課題であると考え。アンケート番号22の職場内外とはどこを指すのか、学生にとって職場とは何かを明確にする必要があるのではないかと。
		教員	社会情勢やその変化に関心が向くよう指導している	3.0	B	
	20	学生	人々の健康に関わる職業についていることの責任を自覚している	3.7	A	
		教員	人々の健康に関わる職業についていることの責任を自覚できるよう指導している	3.9	A	
	21	学生	職業上の問題を解決するために看護学の知識や理論を深める努力をしている	3.6	A	
		教員	職業上の問題を解決するために看護学の知識や理論を深められるよう指導している	3.8	A	
	22	学生	職場内外の保健医療システムの理解に努めている	3.4	B	
		教員	職場内外の保健医療システムの理解ができるよう指導している	3.4	B	
⑤自分の意見を持ち、自ら考えて看護ができる人材を育成する	23	学生	① 興味関心を持ったことを文献やインターネットを適切に活用し、納得がいくまで調べている	3.4	B	○全体的に昨年より評価が向上している中、低下しているのはアンケート番号23②の教員評価である。今後の課題としていきたい。 教員と学生の評価に差がなく、適切に評価され、満足できる結果が出ていると考える。
		教員	興味関心を持ったことを文献やインターネットを① 適切に活用し、納得がいくまで調べるよう指導している	3.6	A	
		学生	② 自分の考えを文献などを活用しながらまとめ、対象者に伝えられる	3.3	B	
		教員	② 自分の考えを文献などを活用しながらまとめ、対象者に伝えられるよう指導している	3.3	B	
	24	学生	客観的に物事をとらえ筋道を立てて看護上の問題を解決できる	3.5	A	
		教員	客観的に物事をとらえ筋道を立てて看護上の問題を解決できるよう指導している	3.8	A	
	25	学生	自己評価を行い、評価に基づいて学習を継続している	3.5	A	
		教員	自己評価を常に行い、評価に基づいて学習を継続できるよう指導している	3.8	A	